



# 鎮守の森だより

NPO法人社叢学会ニュース

第105号

2020年5月1日

## !! 秩父神社での年次総会開催は来年に延期 !!

総会審議と特別講演を5/30に伏見稲荷大社儀式殿で

5月30日(土)に予定しておりました年次総会・研究発表・シンポジウムの秩父神社(埼玉県秩父市)での開催は来年に延期いたします。

今年度の総会議案審議は同日13時半から伏見稲荷大社儀式殿で行い、終了後、岡村穰理事による特別講演を開催いたします。総会審議は正会員に限られますが、特別講演はどなたでもご参加いただけます。状況によりましてはさらに変更することもあり得ます。逐次、社叢学会ホームページ(<http://www.shasou.org/>)、Facebook(<https://www.facebook.com/shasou/>)に発表いたします。ご参照ください。

なお、正会員で総会にご欠席の方は必ず委任状をお送り下さい。

### 5月30日(土)スケジュール

時間	内容
13:30~ 14:00	年次総会
14:10~ 15:30	特別講演 古代エジプト・ギリシャ・インド・北魏・隋・初唐の Sacred Grove、遣隋使の役割及び疫病流行への対応について 岡村 穰・社叢学会理事 ・名古屋市立大学名誉教授

## 社叢学会は来年(2021年)発足から20年目に入ります

次号から賛助会員神社社叢の紹介記事を掲載

2002(平成14)年5月26日に賀茂御祖神社研修道場で発足した社叢学会は、社叢インストラクターの養成、愛・地球博への出展、さらには東日本大震災被災地における社叢復興支援事業、社叢見守り隊事業など、切れ目なく社叢の育成保全を目指す活動を実施する一方、定例研究会、総会での研究発表とシンポジウム、会誌・会報の発行など、社叢に関する最新研究や情報の提供などの事業を続けて参りました。

こうした活動を支えていただくのは会員の皆さまからの会費ですが、中でも賛助会員、協力会員各位には、会費はもちろんのこと、総会・見学会、研究会などの開催で特別なご配慮を頂くなど、大変な貢献を頂いてまいりました。

今後、本紙に賛助会員神社の社叢紹介を掲載してまいります。できるだけ生き生きとしたご紹介といたしたく、情報提供など、会員の皆さま方のご協力をお願いいたします。

賛助会員名簿(太字は発足当初からの賛助会員 順不同) 神社本庁 神宮司廳 埼玉県神社庁 長野県神社庁 岐阜県神社庁 熱田神宮 出雲大社 今宮戎神社 岩木山神社 大神神社 鹿島神宮 賀茂御祖神社 賀茂別雷神社 氣多大社 城南宮 住吉大社 太宰府天満宮 秩父神社 秩父今宮神社 鶴岡八幡宮 東京大神宮 南宮大社 箱根神社 氷川神社(さいたま市) 氷川神社(川越市) 伏見稲荷大社 平安神宮 寶登山神社 宗像大社 鷲宮神社 裏千家今日庵



## 京都の伝統行事を支える森林資源利用

話題提供： 深町加津枝（京都大学大学院准教授）

**鞍馬の火祭** 起源は地震や戦争が頻発した平安中期に遡る。世の平安を願い、御所にあった由岐明神が鞍馬に移転されることになり、940年の遷座の折に鞍馬の住人が松明をもって迎えたことが始まり。江戸時代に今の形になった。火への感謝、循環の感謝、草木への信仰が形となったものであろう。

松明の材は鞍馬周辺で調達するが、「鞍馬火祭保存会」がどこでどれだけを確保するかを決める。5～6月に松明の材料を発注し、同時に山で柴伐りを行う。柴はコバノミツバツツジ、クロモジ、ヒサカキ、アセビなどで、これはかつて薪炭として使われていたものと同じ樹種である。柴刈りの後は山が明るくなり茅芽が見込める。ここでも三井物産が松明用としてコバノミツバツツジを提供している。

9月になると柴を山から出すのだが、これが重労働で、ヴォランティアの手助けを得て300束を超える柴が御旅所まで運ばれる。



山から柴を運び出す

これに加えて各家庭で担ぐものは各自で準備する。10月になると保存会全員で4つの神楽松明を共同で作る。例年、松明をいくつ出せるかが気になる問題だ。伐採後20～30年以上たったアカマツの根は、松明に不可欠な材料であるジンになる。ジンはずっしりと重く、油が多い。

手入れをしている山ではマツが更新していくのだが、最近山の様子も変わってきている。特に鹿害が増えており、使える材料も減っている。コアとなる部分は、スギを割って作るのだが、2年前からは北山杉の有効利用として、北山林業と連携してスギを松明にする試みが続いている。

これらの材を締めるのはフジヅルで、ノダフジを使う。マフジ・アカフジは使えるがキフジは使えない。フジは材料として優れており、上手に扱えばナイロン製より良い。ロープとして使うためには様々な山の知識が合わさった技術が必要で、ツルの形態

によってどう使うかを見極めるのも重要だ。今では麻のロープや針金になるなど、少しずつ変化している。フジヅルを使い続けるためには縄織いなど技術と知識を持つ後継者の養成が重要だ。

祭りの当日18時に火が付き、子供が持つ松明が出てくる。大人は100kgくらいのものを持つが、背中のすぐ上に火があるという状態だ。最近火事などの事故を心配し、水をかけて火勢が強くないようにしているが、威勢良く燃え上がらせたい神事と安全の兼ね合いが問題になっている。

**広河原の松上げ** 松上げはさらに山間部の火伏の神様の行事だ。バスケットに火縄を投げ入れて、山に囲まれ水が限られた集落がまとまって火事にならないように祈る山村の年中行事で、8月下旬に川の近くの平らな所で行う。参加できるのは男だけで、昔は長男しか許されなかった。喪中の人も参加できない。同様の火祭りは芦生や花背、久多、福井にもあるが、雲ヶ畑のものは形態が違っている。

10mくらいの中心柱の先に取り付けた大笠に向かって縄の先の松明を投げ上げて火をつける。大きな構造は同じだが、集落によって材や長さ、縛り方、灯り通りの形が違い、それぞれの地域の文化によって個性がある。今はクレーンで建てる中心柱も、昔は人力で建てていた。

林業・山に関わる人(=祭りの担い手)が減っているために山の手入れができず、材の質の低下が顕著になっている。材の調達にはまず目利きが必要なのだが、ベテランから若手へ、技術をどう伝えるかが課題となる。繋ぎたい技術が伝わらないのは普段使わないからで、技術を持つ人が高齢化する一方で若い住民の減少による引き継ぎ手がないことが問題だ。さらにシカの食害による材料不足も深刻だ。

苦勞の多い行事だが、神事だからこそ困難に耐えてできる喜び、連帯感がある。地域のアイデンティティ・哲学を共有することが欠かせない。

**ちまき用のササ** 祇園祭の厄除けちまきなどで欠かせないのがササであるが、鞍馬の伝統的なササはチュウゴクザサで、花背・桃木などからも調達している。鞍馬、花背のササは毛が無い、香りが良いなどの点で一番良いとされているが、ここでも目利きがいなくなり、質の面で10年前のものとは全く違うという。量も圧倒的に不足し、丹後からチマキザサを調達している。チュウゴクザサとチマキザサは形態的に明らかに違い、分類的にも違う。減少の原因として一斉枯死とシカの食害がある。通常、一斉枯死の後には種子が結実し、やがて元の笹原が再生するのだが、シカが種子や地下茎、新芽を食べつくしてしまい、回復できない状況が続いている。

今や材料の主流は長野、東北のチマキザサで、さらに中国からも輸入している。稲わら、井草も必要なのだが、稲作の機械化によって稲わらが手に入らなくなっている。こうした状況が続けば、やがてプラスチックでよいということにもなりかねない。実

際、桜餅を包む葉や榼、櫛がプラスチックに、しめ縄がナイロンロープになりつつある。蜂に刺され、藪を漕いで一日かけて集めても、ごく安価にしか引き取られず、仲買や最終製品を売る人に金が行って

しまう。苦勞して集める人、ササをちまきにするための技術を持つ人には十分に支払われないという現状の打開は困難だが、何よりも求められるのは、最終消費者が本物の良さを理解するという事だろう。

第38回 中部定例研究会 報告

2020年3月1日

(於 澁川神社(愛知県尾張旭市))



## 天武天皇大嘗祭の悠紀齋田を巡って

講師：長谷川 泰洋(名古屋産業大学講師)  
中山 正秋(ふるさとガイド旭会長)

**直會神社** 令和元年11月の新天皇一世一度の大嘗祭に向けて、5月に栃木県に悠紀齋田が卜定された。令和の大嘗祭の盛り上がりが若干欠ける中、新型コロナウイルスの影響で全国一斉休校になる前日に、日本書紀(720年)に記された天武5(676)年大嘗祭の悠紀齋田における抜穂の儀後の直会が行われた場所に建つ祠の春期例大祭を訪れた。例年は子ども達が集まる囃子太鼓・巫女舞・棒の手奉納・豚汁&綿菓子振舞いも省略され、厳戒態勢の中の神事であった。

**澁川神社の植物と保全** 旧瀬戸街道に面した澁川神社は、1890年頃は街道筋の集落を囲む水田地帯の中に浮かぶ針葉樹林地であったが、1959年の伊勢湾台風によってアベマキとクスノキ等幾らかの樹木のみが残る壊滅的な被害を受けた。その後、植生が回復し、1990年頃には常緑広葉樹林化した。周辺の土地区画整理による市街化に伴って孤立林化して、鳥類散布の種が増加している。現在の樹林構成種は、森林由来・鳥類散布・植栽による32種類が確認され、内、巨樹としてクスノキ・エノキ・クロガネモチ・アラカシ・アベマキがあり、特にアベマキは樹高20.7m・幹周3.0m(計測値は2.95m)で、名古屋都市圏で最大級の巨樹である。環境省の巨樹登録の目安の基準が幹周3.0mであることから、このアベマキは登録に値するサイズである。境内には他に、自生かの判断は難しいが東海地方が分布の中心である希少樹種の本モトミズナラの幼木も見られた。尾張旭市内での環境省登録の巨樹は樹高16.0mのクスノキ1本のみであることから、こうした境内の巨樹及び在来種の保全に向けた今後の取組みが必要である。

**澁川神社の創建及び遷移について** 古代尾張国山田郡総社・延喜式内澁川神社は、悠紀・主記の齋田齋場及び京都御所北方に設営された北野齋場内院の八神殿に祀られた御膳八神(みけつはっしん)を祭神としており、規定で焼却される齋田齋場を村人の懇請により残したもので、江戸時代の印場村絵図に、直

會神社の西方に鳥居・禰宜地・神ツカ・神ノ森などの字名が記された場所があり、創建当初の神殿があったと推定され、付近には近年まで古代条里制の地割が残っていた。

新嘗祭や大嘗祭の儀式は、天武・持統天皇の代に整備が進められ、次の文武天皇の代に大宝律令神祇令(701年)で確立され、最終的には平安時代の貞観儀式(873-7年)・延喜式(927年)に規定された細則にみられるような形となった。奈良時代に確立された新嘗祭では、齋穂は官田で調達されている。

延喜式によれば、齋田の広さは6段、収穫量は約300束、脱穀された稲穀で15石(現在の6石)、今日では収穫量が増えたため齋田は4段になった。

大正4(1915)年の大正天皇悠紀齋田は愛知県碧海郡六ツ美村で、昭和3(1928)年の昭和天皇悠紀齋田は滋賀県野洲市で行われた。

★ 次回の中部研究会は、10月25日(日)・26日(月)の2日間、三重県尾鷲市の社叢訪問と県立熊野古道センターでの勉強会を予定しています。



## 次回予告【第86回関東定例研究会】

- ◆日 時：7月11日(土) 14:00~16:30
- ◆場 所：國學院大學渋谷キャンパス120周年記念2号館1階 2104教室  
(東京都渋谷区東4-10-28)
- ◆テーマ：森里川海からはじめる地域づくり—「地域循環共生圏」の創造に向けて—
- ◆講師：中井 徳太郎(環境省総合環境政策統括官)

## 社叢インストラクター 3人が資格を更新

社叢インストラクターは5年ごとの資格更新認定が求められるが、今年度は、いずれも各地で活発に活動しておられる3人の更新が認められた。  
資格更新者：濱上晋介・古谷朗子・堀内大樹  
(順不同・敬称略)

### 日本学術振興会 育志賞受賞候補者の推薦を募集 意欲ある大学院博士課程学生を顕彰

当学会からの推薦を求める場合は、事務局にその旨を伝えられたい。詳細は<http://www.jsps.go.jp/j-ikushi-prize/index.html>に。

## 事務局から

- 会員の皆さま方におかれましてはいかがお過ごしでしょうか？ 語る言葉も見つからないこの状況で見るうららかな春の光には、なにか残酷なものすら感じます。しかし、これまで克服されなかった感染症はありません。予防専一にご無事にお過ごしくださいますよう、心からお祈りいたします。
- 令和2年度(2020年4月～2021年3月)の会費の振替用紙を同封いたしました。銀行振り込みもご利用いただけます。三菱UFJ銀行 京都支店 普通口座6720345 特定非営利活動法人社叢学会 理事長 藪田稔 です。銀行等から郵便局振替口座へのお振り込みは、099店 当座 0172640 特定非営利活動法人社叢学会 にお問い合わせいたします。このような状況で心苦しいばかりではありませんが、学会活動を円滑に運営するためにも、会費の納入方、よろしくお問い合わせいたします。入金確認後、会員証をお送りいたします。

- 秩父での総会の延期は、まさに苦渋の判断でした。が、何の不安もなく皆さま方にお集まりいただくためには1年間の猶予が必要と考えました。ご賢察の上、ご理解くださいますようお願いいたします。皆さまを笑顔でお迎えできる日を心待ちにしております。
- 下記の通り、『社叢学研究』19号への投稿を募集しています。研究者の業績評価にもつながりますので、ぜひご投稿ください。論文には至らない準備段階の研究ノートや、短報、身近な活動、社叢の訪問記(紀行文)もお待ちしています。学術論文としての体裁を整えるための書き方や、引用文献、参考文献の扱い、記載の仕方については社叢学会のホームページに公開しています(<http://www.shasou.org/journal/format.pdf>)。お目通し下さい。
- 新年度より、原則として火木曜日は事務局を閉めております。事務局へのご連絡はE-mail([shasou@ams.odn.ne.jp](mailto:shasou@ams.odn.ne.jp))、FAX・留守番電話075-212-2973)にお願いいたします。月水金曜日は10時～15時に在室しております。

## 編集後記

不要不急って、、、社叢にまつわる学際的な研究と保全って、不要ならこんな(!)学会、そもそもできませんから。不急と思っているうちに消滅の瀬戸際に立たされたり、貴重な動植物が絶滅してしまうかもしれないし。悩ましい。。。

在宅勤務といわれても、この会報を作る編集ソフトは自宅のPCでは使えないし、年度末の経理処理も領収書は紙だから重たい紙束を持って帰らなきゃいけないし。。。かくして、密集・密接は、事務局は1人だけだし、電車もすいているし、密閉は窓を開ければいいんでしょ！ てなわけでこっそり(?)出勤。でも、週に4日はちゃんとStay Homeしてるから！！ (藤岡 郁)

## 掲 示 板

### 『原稿募集!』

『社叢学研究』第19号への投稿：論文、研究ノート、短報、資料紹介や調査報告(各400字詰原稿用紙40枚以内)と「鎮守の森の活動報告(祭、音楽会、調査、ワークショップなどの実施報告、抱える問題点など)」「社叢訪問記」(各1,200字程度)を募集いたします。締め切りは、論文等10月30日(金) 活動報告等12月25日(金) いずれも必着。

★ 会誌の投稿規程と論文の体裁、引用文献の記載方法を公開しています。投稿される方は、これに従って提出してください。<http://www.shasou.org/journal/format.pdf>

\* 書評欄では会員の皆さま方の著作を取り上げています。出版された方は、ぜひご献本下さい。

発行人 社叢学会事務局 〒604-8115京都市中京区雁金町373番地みよいビル303号  
TEL・FAX 075-212-2973

URL <http://www.shasou.org> E-Mail [shasou@ams.odn.ne.jp](mailto:shasou@ams.odn.ne.jp)

社叢学会関東支部 〒368-0041 秩父市番場町1-1 秩父神社社務所内  
TEL080-1514-5032 E-Mail [shasougakkai@hotmail.com](mailto:shasougakkai@hotmail.com)